

三島村の黒島と本土・枕崎をつなぐ1日1便の航路を 日本共産党の塩川鉄也衆院議員が政府に要求

3月6日の衆議院予算委員会で、日本共産党の塩川鉄也衆院議員が、三島村のみなさんの生活航路であり、生活物資、医療、福祉、農林水産業、教育、行政サービスなど、生活すべてにおいて必要不可欠な航路である三島航路について質問し、三島村と本土をつなぐ一日一便の運行体制を実現するよう要求しました。



予算委員会で質問する
塩川鉄也
衆院議員



週三便の三島航路

病気になった時が心配

住民の唯一の生命線として、村営で運行されている三島航路。赤字がかさむため週三便を限度として運行されているため、急な用事ができても一週間のうち四日は、その日のうちに本土に行くことができません。

病気になっても、船が出た後だと翌々日に本土の病院に行くことになることから心配する声が出ています。

枕崎航路をつくり

一日一便の運行体制を

鹿児島から竹島、硫黄島、黒島の三つの島を回って黒島に入港した後、折り返すのではなく、黒島から枕崎に行くルート→直接本土につなぐ枕崎航路をつくるのが三島村の住民のみなさんの要望であることを訴えました。

塩川議員は、住民の要望に応え、枕崎航路をつくることよって黒島と本土をつなぐ一日一便の運行体制を実現するようせまりました。

国土交通大臣の答弁

「利便性を獲得するということは、大変重要なこと」「正式な申請を受けまして、判断させていただきます」「できるだけ要望に後いいたいとは思いますが、前向きな答弁。」

離島航路を海の国道と位置づけ 離島航路への支援の抜本的拡充を

離島航路は離島に住む住民にとって根幹的な交通手段であり、その公共性は本土における幹線道路や鉄道の比ではありません。離島航路はまさに海の国道です。陸の国道であれば、税金で道路を整備し、利用者は



無料で利用できます。海の国道である離島航路も本来は無料で利用できるように取り組みこそ求められています。離島航路を海の国道と位置づけて離島航路への支援を抜本的に拡充するよう要望しました。

税金のムダ使いをただし みなさんの願い実現へ全力でがんばります

これまで、離島に住む妊婦の検診・出産のための交通費や宿泊費への助成を実現させるなど、離島に住むみなさんの命と健康をまもるために力をつくしてきました。

一昨年末、塩川衆院議員と一緒に村役場を訪問し懇談したとき、「一日一便の枕崎航路を」という要望を受け、国会で塩川議員がとりあげましたが、県議会でもみなさんの要望に応えられるよう全力でがんばります。税金のムダ使いをただし、くらし優先の県政へ全力をつくします。

大山村長が感謝の訪問 “村ができて以来、国会質問で 取り上げられたのは初めて”

6日の予算委員会での質問の後、大山辰夫三島村長が来室され、懇談しました。本土と島をつなぐ航路が週三便という三島村の生活を紹介した質問が、村民に大反響だったとのこと。

「昭和21年に村ができて以来、国会質問で取り上げられたのは初めてだ」という声もよせられたそうです。政府の答弁も前向きでした。ぜひとも実現に近づきたい。



衆院議員
塩川鉄也



県議会議員
まつざきまき
真琴